

報 告

- ◎ [国際森林研究機関連合会長が来所](#)
- ◎ [北島上席研究員が研究奨励賞を受賞](#)

◎ 国際森林研究機関連合会長が来所

国際森林研究機関連合（「International Union of Forest Research Organizations」以下「IUFRO」という。）のLee Don Koo（李敦求）会長が、5月23日に来所されました。

会長は、大熊理事長、理事らを表敬訪問され、当所とIUFROとの連携等について情報交換が行われました。また、藤間国際研究推進室長、IUFRO日本委員会（IUFRO-J）※の杉村上席研究員、木口木材保存研究室長、松本温暖化対応推進室長、田中研究企画官らから当所のIUFRO関係研究活動の概要等についての説明を受けられ、意見交換を行うとともに、IUFROの活動、当所との係わり等に関する講演が行われました。

また、藤間室長、朴特別研究員の案内で「つくばリサーチギャラリー」での“森の力”と題する企画展示などを見学されました。

※IUFRO-Jは、日本国内の森林・林業・林産業に関連する研究機関の相互連携を図り、IUFROに関連する諸活動に貢献することを目的として、当所の国際連携推進拠点に置かれています。



Lee IUFRO会長（前列左）と大熊理事長（前列右）

◎ 北島上席研究員が研究奨励賞を受賞

平成18年5月30日、当所上席研究員の北島博氏が、「第45回林業科学技術振興賞※（研究奨励賞）」を受賞しました。

北島氏は、スギ・ヒノキの生立木の内樹皮を食害して材価を激減させる重大な林業害虫であるスギカミキリについて、室内における人工・継代飼育技術を確立するため、「孵化に最適な卵の保存条件の解明」と「幼虫の飼育方法及び低温処理による効率的な成虫休眠打破方法の開発」を行ってきました。

卵の保存では、高湿度条件で保存すると卵期間が短縮されることを明らかにし、飼育方法では、人工飼料飼育で得られた成虫に対し、低温条件を経験させることにより十分な実験供試虫を得られる飼育方法を確立しました。

スギカミキリで確立した継代飼育技術は、他の重要な森林害虫の飼育にも応用可能であり、従来、室内で継代飼育が困難とされていた穿孔性害虫の飼育を可能にした業績に対して評価を受けての受賞です。

※林業科学技術振興賞とは、（財）林業科学技術振興所が林業又は林産の科学技術研究の振興発展に貢献された方にその功績を讃えて贈る賞です。



表彰を受ける北島上席研究員